

100 肝疾患における血中甲状腺ホルモン含量
東京都老人総合研究所第一臨床生理

○木谷健一

ヘキストジャパン医学研究部 RI課

新発田杏子

甲府市立病院内科

井内正彦

甲状腺ホルモンの血中含量に及ぼす肝障害及び年齢の影響を、日本住血吸虫感染の既往をもつ肝障害について検討した。

対象：男子104例、女子52例の計156例でその内容は肝硬変症68例（うち肝癌合併2例）肝線維症29例、肝炎59例で、全て剖検又は肝生検により診断確定を行なったものである。年齢構成は40才以下25例、41～50才52例、51～60才36例、61～70才28例、71才以上15例であった。

方法 血中全 T_4 結合能（TBC）は蛋白競合結合法（CPBA）で未結合部位容量を正常血清値を100としてパーセントで求めた。 T_3 、 T_4 、TSHはラジオイムノアッセイ法で測定し、 T_4 はCPBA法を併用して比較した。

結果 各疾患別の測定値平均 $\pm$ SDを示すとTBC（ ϕ ）、 T_3 （ng/ml）、 T_4 （ μ g/dl）、TSH（ μ U/ml）の順に、肝炎では、各々 101.32 ± 9.68 、 0.93 ± 0.64 、 9.79 ± 4.44 、 7.21 ± 3.12 、肝線維症では、 100.2 ± 1.72 、 0.78 ± 0.37 、 8.29 ± 2.72 、 6.85 ± 3.90 、肝硬変症では 101.13 ± 11.5 、 0.56 ± 0.36 、 6.95 ± 2.86 、 9.60 ± 4.46 となった。即ち各肝疾患群ともTBCはほぼ正常範囲、 T_4 正常又はやや高値、TSHはやや上昇、 T_3 は肝炎、肝線維症、肝硬変症の順でいずれも低下傾向を示した。

肝炎群においては T_3 低下傾向を示すものは高令者に多く、年齢と T_3 値には負の相関（ $r = -0.407$ 、 $P < 0.01$ ）が認められた。肝線維症と肝硬変症では症例の殆んどが40才以上であるため、この関係が明らかでないが、40才以上にきぎてみれば、年齢と T_3 値は相関せず、 T_3 低値は肝障害自体によることが示唆された。

またRI法による T_4 値とCPBA法による T_4 値は一致しないものが多く一般にCPBA法による値はRI法によるよりかなり高値を示した。

TSHの高いものには T_3 の低値のものが多かったが T_4 との関係は明らかでなかった。 T_3 低値は年齢による影響を考慮する必要があるが、肝障害の強い場合の T_3 低値は $T_4 \rightarrow T_3$ Conversion の場としての肝の機能低下として説明されよう。

101 ^{201}Tl chloride の臨床応用
一甲状腺疾患71例の検討一

東京女子医科大学 放射線科

○牧 正子、奈良成子、日下部きよ子

山崎統四郎、田崎英生

腫瘍親和性RIとして最近注目されている ^{201}Tl -chlorideを用いて、結節性甲状腺腫を主とした種々の甲状腺疾患71例にシンチグラフィーを施行した。

対象：結節性甲状腺腫35例、甲状腺癌術後12例、慢性甲状腺炎9例、甲状腺機能亢進症8例、亜急性甲状腺炎1例、腺腫様甲状腺腫1例、甲状腺癌疑い5例である。

方法： ^{201}Tl -chlorideを1.6～2mCi用い、約半数の症例では静注5～10分後よりシンチグラフィーを開始した。その他の症例では、前頸部に検出器を設置し、 ^{201}Tl -chloride静注直後より15分間の経時的変化を1フレーム30秒としてSearle photo/Gamma NAに接続したVaricam Nuclear Medicine data systemに収録し、正常甲状腺及び結節部に関心領域を設定し各部の時間-放射能曲線を得た。シンチグラムはwholebody前面像と前頸部像をルーチンとし、必要に応じ他部位を追加した。シチスキャナーによる像を追加した症例もある。

結果：結節性甲状腺腫35例中、手術施行例は10例であり、内5例が甲状腺癌、残り5例が甲状腺腺腫であった。甲状腺癌のうち髄様癌の1例は甲状腺の結節部への ^{201}Tl -chlorideの集積は明らかでなかった。腺腫のうち巨細胞腺腫の2例は ^{201}Tl -chlorideの著明な集積を認めた。甲状腺癌術後12例中放射性ヨードによるシンチグラムで骨又は肺転移の明らかな症例8例中mixed typeの乳頭腺癌の肺転移例の1例では、 ^{201}Tl -chlorideの集積を認めなかった。残り7例には集積を認めた。慢性甲状腺炎9例は全例甲状腺全体にびまん性にかなりの ^{201}Tl -chlorideの集積をみた。甲状腺機能亢進症8例中 ^{131}I 治療後の6例はびまん性の集積を認めたがその程度は軽度から高度へと種々であった。亜急性甲状腺炎1例では集積は軽度であった。

結語： ^{201}Tl -chlorideによって描出されなかった髄様癌の1例は腫瘤の大きさは長径が3.8cmであったが一部のう胞を形成していた。甲状腺癌術後例で肺転移への集積を認めなかった例や、良性の腺腫でも著明な集積を認めた症例がある。慢性甲状腺炎はびまん性にだが全例にかなりの集積を認めた。

^{201}Tl -chlorideによる悪性か否かの鑑別はかなり難しいと予想されるが、今後さらに症例を重ねて検討していきたい。